

港区地域情報

あつたしんでんさいごくさんじゅうさんかんぜおん ぼんわりかんのん
熱田新田西国三十三観世音(番割観音)

じゅうななせいき おわりはん ぞうせい
十七世紀に尾張藩が造成した熱田新田。これを一番

から三十三番に割り、わ 旧海岸線の現百曲街道

あたり、さいごくさんじゅうさんかんのん 西国三十三観音に擬して配された三十三

の観音様が今も残り、「番割観音」と呼ばれています。

観音様は水害等すいがいとうで移動や再建さいけんを経た今も、十七堂

に分祀ぶんしされ、うち港区しちどうじゅうろくたいに七堂十六体が祀まつられています。

これらを巡めぐる歩き遍路の「名古屋番割観音講」が、

毎月第三日曜の朝八時頃から約八時間かけて、東の熱

田区一番から百曲街道沿いに中川区下之しものいっしき一色三十三

番観音堂まで巡っていきます。この時は二、三番慈じ

教寺きやうじを除き、各堂の錠じやうも開きます。観音講は自由

参加で、せんだつ先達さんに従い、はんじやしんぎよう般若心経と西国三十三
観音の御詠歌を納め、こえいか おさ のうきようちよう しゅいん納経帳に朱印をいただきま
す。観音講は、から新田開発に絡む観音信仰の言い伝えの
残る鬼頭景義の菩提寺、「空雲寺」等も巡拝します。
きとうかげよし ほだいじ くううんじとう じゅんばい

なお、三十三番は同番の観音様が、中川区下之一色
と港区明正めいしやうにあります。港区明正の観音様は光背
に「てんめいにみずのえとらにがつ天明二壬寅二月」の文字が刻まれており、こ
れは一七八二年ですので、熱田新田造営の慶安二年けいあん
(一六四九年)から百三十年以上過ぎて造られた観音
様ということが分かります。

番割観音については、おわりめいしよずえ まきのよんぷろく『尾張名所図会』
巻之四附録
おはりだのましみず(小治田之真清水)にも次の記述があります。

さんじゅうさんしよかんのん
三十三所観音

熱田新田にあり。けいあんがねん えいけん慶安元年の營建なり。当新田は、

熱田の木芽渡きめのわたし まんばがわより万場川まで東西さんじゅうよちよう三十余町あり、

其その間に民居みんきよひとむれ一群さんじゅうさんじよづつ三十三所にわかれ住めり。

東より一番二番とついで、西のはてを三十三番とす。

其番毎そのばんごとに観音堂いちう一字こんりゅうづつ建立して西国三十三の観

音ぎに擬よす。依よってはじめの村を一番割なかほど、中程なかほどを十六番

割ぎなどのの（の）ようによべり。

参考文献

「百曲街道と番割観音めぐり」はっけん・たんけん・中川区ま
ちの魅力発信隊 中川区役所まちづくり推進室 二〇〇七年

『尾張名所図会』巻之四 附録（小治田之真清水）愛知県郷土

資料刊行会 一九七一年 二四頁

※嘉永六かえい（一八五三）年十月発行の文園岡田啓著の和書で、天保

年間（一八四〇年頃）刊行の尾張名所図会の追補の意味で、「尾

張田の増水」を洒落て「小治田之真清水」と命名されました。



24 番 (小碓 1)



番割観音講輪袈裟 13 番如意輪観音(須成)



33 番(下之一色)



33 番十一面観音(明正)



29~33 番観音堂(明正 1 旧 31 番割)

三十三所の記述中に「慶安元年の營建なり」とありますが、熱田新田竣工は翌慶安二年なので、入植開始時期のことと思われます。「万場川」は庄内川。なお、「番毎ほんごとに観音堂一字づつ建立し」とは、沿革の説明であり、既に天保時代には、観音様は合祀ごうしされていきました。(の)は原書にはなく、補記したものです。